

## 審 議 資 料

項目：生態系（生物の生育・生息基盤、生物・生態系、緑）

担当：興水委員

## 意 見

**【生物の生育・生息基盤、生物・生態系、緑 共通】**

- 1 緑化計画について、樹種等の植栽内容や植栽配置は、今後、具体的な検討を行うとしていることから、現況からの変化の程度と計画地内の環境及び周辺の環境に与える影響について明らかにすること。

**【生物の生育・生息基盤】**

- 2 計画地は昭和15年に開苑以来、植栽樹木の生育及び更新が見られ表面には落葉等により腐植層が成立し、豊かな表土が存在していることから、その保全と新たな植栽に当たっては有効活用を図ること。

**【生物・生態系】**

- 3 計画地内で確認された注目される種のうち、可能な限り移植を行うとしている種には移植が困難な種が含まれていることから、今後、植栽配置を検討するにあたっては、現位置における保全を検討すること。また、移植を行う場合は、生息環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴取するなど適切な移植計画の策定に努めること。

**【緑】**

- 4 武蔵野自然林や外周部樹林帯は保全エリアとして樹木保全を行うとともに、苑内については可能な限り既存樹木を残す計画としていることから、保全エリア以外の既存樹木の保全計画について明らかにすること。

## 審 議 資 料

項目：アメニティ・文化（自然との触れ合い活動の場）

担当：興水委員

## 意 見

## 【自然との触れ合い活動の場】

- 1 事業の実施により、自然との触れ合い活動の場である馬事公苑内は改変されるが、四季の広場など新たな自然との触れ合い活動の場を整備する計画としていることから、その機能や想定される利用形態について具体的に記述すること。

## 【自然との触れ合い活動の場】

- 2 計画地内において、現在、日本庭園が位置する場所に新たに整備されるナチュラルアリーナに池を整備する計画としていることから、その役割について明らかにすること。

## 審 議 資 料

項目：生活環境（騒音・振動）

担当：山本委員

## 意 見

**【騒音・振動】**

- 1 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音について、本事業による増加分はわずかであるとしているが、周辺道路の道路交通騒音は現状でも環境基準を超えている地点があることから、より一層の環境保全措置を検討し、工事用車両による騒音の低減に努めること。

**【騒音・振動】**

- 2 建設機械の稼働に伴う建設作業騒音・振動について、予測は勧告基準を下回るとしているが、計画地は住宅に囲まれた立地であるほか、教育・福祉施設等の環境上配慮すべき施設が多く存在していることから、環境保全措置を徹底し、建設作業における騒音・振動のより一層の低減に努めること。

## 審 議 資 料

項目：資源・廃棄物（廃棄物、エコマテリアル）

担当：谷川委員

## 意 見

## 【廃棄物】

- 1 建設廃棄物の再資源化率に「建設リサイクル推進計画 2014」（国土交通省）における目標値を設定しているが、「東京都建設リサイクル推進計画」における目標値も踏まえ、再資源化率のより一層の向上に努めること。

## 【エコマテリアル】

- 2 建設工事において、エコマテリアルの積極的な利用に努めるとともに、使用状況について確認すること。